

7.

縄文のビーナス誕生を思わせる日本最古級の美しい土偶が出土

伊勢と近江を結ぶ太古からの道「八風街道」沿いの東近江 永源寺相谷熊原遺跡

東近江 永源寺相谷熊原遺跡 現地説明会に参加 2010. 6. 5.



縄文草創期の土偶が出土した永源寺相谷熊原遺跡全景と直ぐ横を流れる愛知川 2010. 6. 5.

5月30日の朝刊各紙に「13000年前縄文時代草創期の日本最古級の「土偶」が鈴鹿越の麓の東近江永源寺 愛知川 河岸段丘から出土した」と写真入で報じられた。

これは まさに「縄文のビーナス」
それも 出土したのは縄文の草創期だという。
本当にびっくり。

また、出土した地点は琵琶湖東岸東近江から鈴鹿越で伊勢にいたる太古の道「八風街道」が山越にかかる永源寺であることにもびっくり。

関西にはあまり有名な縄文遺跡はなく、よもや 縄文のビーナス誕生を思わせる土偶が出土するとは・・・。

場所は先月出掛けた東近江綿向山の直ぐ東側 愛知川を挟んで 湖東の名刹永源寺の対岸。この愛知川を遡って鈴鹿の山並みを越えた伊勢側には縄文草創期の土偶が出土した「粥見井尻遺跡」があり、鈴鹿を挟んで伊勢と東近江で最も古い縄文の土偶が出土したことになる。



(縄文の土偶が最も盛んになるのは縄文中期以降。縄文のビーナスと呼ばれる国宝茅野市棚畑遺跡の土偶もこの頃で、草創期の土偶が出土したのは今回の永源寺相谷熊原遺跡と三重県松坂の粥見井尻遺跡の二つのみである。)

また、この琵琶湖へ注ぐ愛知川沿いを下ってゆくと ウッドサークルの中で 仮面をかぶって縄文の祭が行われていたと言われる縄文後期の東近江市能登川正楽寺集落遺跡が河岸段丘の上にある。

この愛知川沿いの道は「八風街道」と呼ばれる古道。

この地は関西縄文人たちの故地ではないのか・・・

また素晴らしい土偶 縄文のビーナス・仮面の女神・亀ヶ岡遮光器土偶や風張合掌土偶など数々の名品もそのルーツはこの鈴鹿山麓ではないのか・・・

さらにイメージを膨らませると日本の生地師の郷「君畑」もこの北の山中である。

「関西の縄文」に突然のビッグニュース 相谷熊原遺跡とは どんどこころなのだろうか・・・関西の縄文ビーナスを是非 眺めたい。永源寺には何度か出かけたことがありますが、お寺以外にほとんどイメージ無し。 また 鈴鹿を越えてゆく八風街道もどんな風なんだろう・・・。

6月5日現地説明会があると報じられているのを見て 照会すると発掘現場は 現説が済むと直ぐに埋め戻すと・・・。本当にどんどこころなのか 是非見たくて 6月5日朝早く起きて永源寺に出かけました。



粥見井原土偶
高さ 6.8cm
縄文草創期 日本最古級の土偶
(13000年前)



永源寺相谷土偶
高さ 3.1cm



国宝 縄文のビーナス
高さ 45cm
縄文中期 茅野市棚畑遺跡
(4500年前)



永源寺相谷熊原遺跡の位置

縄文時代後期前葉(約 4000 年前)の集落跡 正楽寺縄文遺跡 滋賀県東近江市能登川 縄文のウッドサークルと仮面が出土

正楽寺遺跡は、神奈川能登川町大字種(たね)地先の田園地帯、愛知川左岸の標高96m 地帯に立地する縄文時代後期前葉(約4000 年前)の集落跡で、西日本最大級の縄文遺跡として注目を集めた。主な遺構建物5棟、掘立柱建物跡14棟、ドングリ貯蔵穴130基以上、サササイトを用いた石器製作場、環状木柱列など。また、集落側の岸辺に多量の土器や動物遺体などが堆積した土器塚が、130m 以上にわたって確認され、様々な遺物が出土。さらに環状木柱列に近い土器塚最下層から、このムラのリーダーだったと思われる丁寧に埋葬された埋葬人骨が1体見つかった。



【参考】 1. 5月29日・30日 日本最古級の土偶出土を伝える新聞各紙の記事 (インターネットより再整理)

<http://buffalonas.com/mutsu/www/2010htm/iron6/1007aidaninews.pdf>

2. 【風来坊】東近江 陽だまり walk 2009.3.15. 1. 縄文のウッドサークルがあった能登川 正楽寺縄文遺跡

<http://buffalonas.com/mutsu/www/2009htm/walk6/09spsigaa00.htm>

1. 東近江 永源寺相谷熊原遺跡 現説参加 2010. 6. 5.

近江鉄道八日市から八風街道を永源寺へ

新聞の報道で知った素晴らしい土偶と縄文草創期とは思えぬ竪穴住居群の村の出現。

トピックスになるような縄文遺跡の少ない関西にとってビッグニュースである。施肥とも埋め戻される前に現地に建ちたいと6月5日早朝に神戸を発って永源寺に出かけました。

10時の現地説明会に間に合うように出かけるには 車だと名神を走って 八日市ICを出て永源寺に向かえばなんと言うことはないのですが、電車とバスを乗り継いでゆくとなると中々厳しい。近江八幡まで電車で行って それから近江鉄道で八日市そしてバスで永源寺へ。インターネットの時刻表を調べると朝6時過ぎに電車に乗れば何とか10時に永源寺に入れる。

(ついでながら 神戸から近江八幡までがほぼ100km で往復割引・ジパングの割引が使える範囲に入り、格安。ジパング`に入会して早く使ってみたかった今回の永源寺行でした。)

まだ 新快速は走っていないが、6時25分三宮発の米原行に乗って 近江八幡へ。乗継連絡のある近江鉄道で八日市駅に8時47分。9時発の永源寺車庫行のバスに飛び乗って9時34分に永源寺車庫着。何とか10時の現地説類会に間に合う。いつもは行き当たりばったりの風来坊であるが、今回はとにかくスケジュールどおり行かないと間に合わず。



東近江・永源寺周辺 行動地図

近江八幡8時14分着。一旦改札を出て直ぐ隣の近江鉄道の改札へ。

永源寺行のバスとセットになった一日乗車券を買って出発。

ついこの間日野／鎌掛谷の石楠花を見に行っただけでなれたもの。でも この近江八幡から八日市を経て米原へ行く路線に乗るのは初めて。近江平野の真っ只中を安土城跡の山を左手に東の鈴鹿の山並みへ向かって走ってゆく。

奇岩のそそり立つ太郎坊宮の横をすり抜けて30分ほどで近江鉄道八日市駅である。



近江鉄道



左手に安土城跡の山を眺めながら



はるか遠く鈴鹿の山を前方に近江平野を東へ

近江八幡から八日市へ 麦秋と田植えの近江平野の真っ只中を走る近江鉄道の沿線で 2010. 6. 5.

八日市駅に降り立つと相谷熊原遺跡現地説明会行の直行臨時バスが接続されていて、最寄バス停である永源寺車庫まで行ってくれる。

現説の時間に間に合うかと心配でしたが、これで安心。

日曜日の早朝 八日市駅で降り立った人は ほとんどが永源寺相谷熊原遺跡の現地説明会に出かける人達でバスもほぼ満員で永源寺へ向かって走り出す。

八日市の市街地を通り抜けるのは初めてであるが、近江八幡と共に東近江の中心地で 街路樹が並ぶ広い道の両側に東近江地域の官庁街が続く。

さすが 近江商人の町である。また、大風の町としても有名である。



近江鉄道 八日市駅から臨時バスで永源寺へ 2010. 6. 5.

国道321号線 古道「八風街道」は八日市駅から東に伸びる大通りの一本南側を東西に近江八幡から八日市の街を通り抜けて近江平野のど真ん中をまっすぐ東へ突ききり、永源寺から鈴鹿の山並みを越えて四日市・伊勢に結ぶ道。

古くは伊勢風土記に登場し、古代から伊勢・尾張と近江・京都を結ぶ最短コースとして大いに繁栄。近江商人がこの道を通して物資・特産を運び大きな財を成したといわれる。

現在の国道21号線の鈴鹿越は悪路で有名で山越の交通路は北の鞍掛峠越や南の武平峠越・鈴鹿峠越にゆづっているが、石樽峠をトンネルで抜ける工事が進んでおり、また、往時の賑わいを取り戻すかもしれない。

バスは八日市の市街地を八風街道に出て東へ鈴鹿の山並みに向かって突き進む。

村田製作所の工場の横を通り、名神八日市 IC を潜り抜けると田園地帯が広がり、前方に鈴鹿山脈の山並みが見えてくる。街道はその山並みへまっすぐ続く一本道。

田園地帯からこの山並みの中に分け入る入り口が永源寺で、鈴鹿の山並みの右手端に先月歩いた綿向山・日野周辺がぼんやりかすんでいる。東の鈴鹿の山並みへまっすぐ伸びる国道321号線「八風街道」

この道の左手北側を平行して鈴鹿の山並みから愛知川が流れ下って来るのですが、バスからは見えない。



八日市から東へ 近江平野の中央を八風街道がまっすぐ突ききる



右手端の山並みが日野・綿向山周辺 2010. 6. 5.



和南川を渡ると左手に愛知川 2010. 6. 5.

八日市から 30 分弱。 山裾に近づいて、山上集落に入り右手から愛知川に流れ込む和南川の合流点を渡ると視界が開け、左手に愛知川が見えてくる。

集落を抜けて急な坂を登って山上小学校前に出ると、街道は愛知川が見え隠れする南岸の河岸段丘の上。大きな送電鉄塔と送電線が奥の愛知川ダムにある発電所から山を渡ってゆく。

まもなく永源寺である。

相谷熊原遺跡現地説明会の案内ボードを持った人が眼に飛び込んでくる。 バスはダイレクトに遺跡の最寄り駅である終点の永源寺車庫バス停へ行く臨時便なので、対岸にある古刹「永源寺」への橋紅葉橋を渡らずそのまま永源寺車庫バス停へ。



鈴鹿から西へ 山上・永源寺を流れ下る愛知川 奥の永源寺ダムの送電線が川を渡ってゆく 2010. 6. 5.

永源寺車庫のバス停は愛知川の南岸前方に広がる永源寺相谷集落の入り口の川のそばにあり、ここから先 八風街道は鈴鹿の山越にかかる入口である。左手下を愛知川が流れ 前方には永源寺相谷の集落 右手には山裾に沿って広い河岸段丘の上に田園が広がっている。岸の樹木に阻まれて 流れ下る愛知川の水面やちょうど対岸正面にある永源寺の本堂はよく見えない。国道正面には鈴鹿の山並みが連なり 鈴鹿越の案内道路標識あり、道はここから右手にカーブしながら鈴鹿の山並みの中へ登ってゆく。道路案内板には「石樽峠 崖崩れで通行止め」と書かれていて 鈴鹿越が今も難所であることを示している。

相谷熊原遺跡現地説明会の案内ボードを持った人たちが待ち受けてくれる。 バス停のすぐ横に駐車場があり、もう多数の車でいっぱいである。遺跡へは今バスで愛知川沿いを登ってきた道の右手の河岸段丘の上を西へ約 500m ほど戻ったところ。

バスを降りた人たちの行列が田園地帯の中を遺跡へ向かう。

ところどころに案内標識と案内の文化財保護協会の人たちが立っていてくれる。



永源寺車庫より東の鈴鹿方面 2010. 6. 5.



永源寺愛知川の南側の河岸段丘の上 永源寺車庫 写真奥が相谷熊原遺跡 2010. 6. 5.



バスから降りて 案内板にしたがって 田園の中を 現地説明会へ向かう 2010. 6. 5.



東側 鈴鹿の山々



熊原集落の中に遺跡への案内板



熊原集落を抜けると 圃場整備が進む広大な田園が広課程増した この一帯が相谷熊原遺跡
相谷熊原の集落をぬけると前方にパッと圃場整備が進む田園地帯が広がり、来る道々 歩きながら文化財保護協会の人々が、「こんなすばらしいロケーションはない。 ぜひ 見てほしい。 残したいですね」と言っていました、すばらしいロケーション。 ここでも 縄文人はすばらしい景色の中にいたことがわかる。



南から北へ 右手の山裾を流れる愛知川の河岸段丘の上広がる相谷熊原遺跡のある河岸段丘 東側より 2010. 6. 5.

圃場整備が進む田園地帯に入るところに現地説明会の受付のテントが建てられ、そこで現地説明会の資料をもらう。
圃場整備が進む奥の一角にテントがはられた場所があり、その手前の一角にたくさんの人たちが群がっているのが見える。
手前の人が群がっている場所が今回 縄文草創期の竪穴住居群（4 棟）が連なって発掘された場所で、その奥テントが立つよ

このところが、土偶が発見された竪穴住居跡の場所です。すでに埋め戻され、その横のテントの中で 今回出土した土偶が見られるという。10 時になって現地説明会が始まった。

人が多く、土偶を見る人がテントのところで詰まってしまうと予想され、約 50 人程度づつ遺跡そばに行き、現地説明を聞く。



永源寺相谷熊原遺跡 河岸段丘の上 北側から南側 2010. 6. 5.



5号竪穴住居跡（手前北側）より 南側へ

写真中央 テントの右樹木がみえる一段上がったところが
土偶が出土した1号竪穴住居跡の位置

2号竪穴住居跡（南側）より 北側へ

正面奥山の下の家並下を愛知川が流れ下る

13000 年前の縄文草創期の竪穴式住居跡 同時期に4棟が建ち並び 縄文の村形成のはじまりか・・・

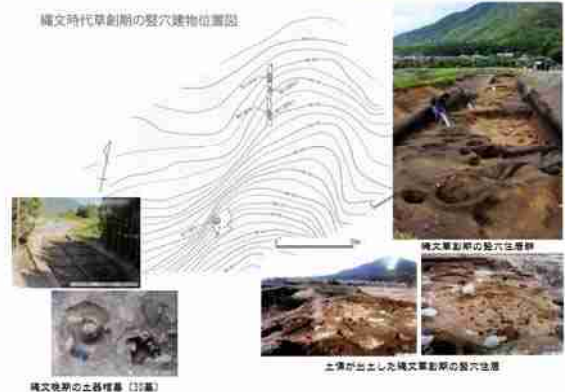




土偶が出土した竪穴住居1跡 4つの竪穴住居が重なって出土 奥より竪穴住居2-6跡 土器棺墓



縄文時代草創期の竪穴建物位置図



縄文草創期の集落跡 相谷熊原遺跡

八風街道 と八風峠

近江八幡の佐宿から八日市・永源寺・八風峠（鈴鹿）を経て伊勢へ至る近江商人や伊勢の商人たちの重要な通商路で、伊勢と京都を結ぶ最短コースとして栄えた古道である。

現在 国道321号線がほぼこの道をたどるが、鈴鹿越は八風峠の北側の石樽峠を通る。

武佐（近江八幡：八風街道と分岐）－末広－小脇（八日市）－八日市－妙法寺－立石－御園－如来－山上（永源寺）－高野－九居瀬－夢畑－杠葉尾（ゆずりお）－八風峠－菰野三

八風峠の由来が初めて語られたのは[伊勢風土記](和銅 710 年)

『伊勢国は天御中主尊の第十二世孫、天日別命が統治している土地である。この地から東へ数百里のところに、伊勢津彦命の治める土地がある。

天日別命は伊勢津彦命に問うていわく。「天孫たる我等にこの地を献上されたい」

伊勢津彦命は「我らは当地を統治して久しく、いまさら貴方の言うことは聞けない」

そこで天日別命は兵を引き連れ攻め入ろうとした。

すると 伊勢津彦命は恐れ入って「我らはこの地に留まらず」と降伏した。

天日別命は「汝の去る証しは何か？」と問うたところ、答えて

「我は神通力で八風(やかぜ)を起こして海水を吹き上げ、その波に乗って東方に立ち去るつもりである。これは天孫に対する我等の敬意である」と。

天日別命は兵を整えて待機していると、真夜中になって大風が四方から吹き起こり、それが波浪をあおり立て、光は稲妻となって海も陸も明るく照らした。

そして ついに伊勢津彦命はその波に乗って遠く信濃の国へ立ち去っていった。』

このときの八風(やかぜ)が八風峠の語源だと言う。

地元の村の人々は伊勢津彦命を守神として神社に祭り敬っている。

神通力で[やかぜ]を巻き起こしたこと、伊勢津彦命は風の神様としてあがめられ、八風大明神として、八風峠にかつて神社があったという。

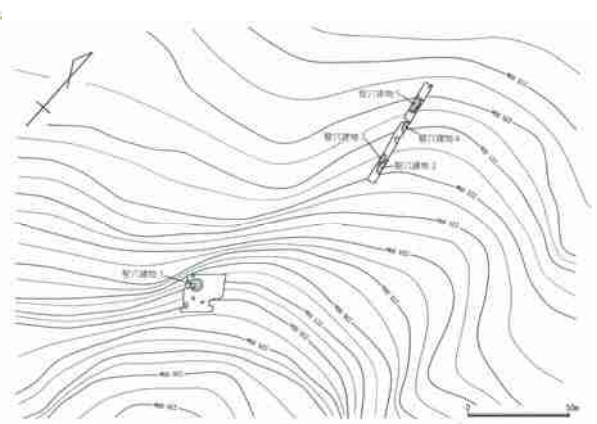
2. 永源寺相谷遺跡 縄文草創期の竪穴式住居跡群

〔記事の中の竪穴式住居図面は現地説明会資料より転載〕

愛知川（写真正面）が西から東へ流れ下る河岸段丘の上に 13000 年前の草創期の竪穴式住居群（5 棟）が出土
まだ 定住が安定化しないと考えられていた 13000 年前の縄文草創期

想像とはかけ離れた直径 8m ・寒さを避けるための深さ 1m にも及ぶ大型竪穴住居がほぼ同時期に
5 棟隣接立ち並ぶ。住居内には炉跡はなし。縄文草創期にすでに村が形成???? 定住の始まりか・・・

また、気候の寒冷化を反映しての深い竪穴 関西で見るのは初めて



13000 年前の縄文草創期の竪穴式住居跡が出土した場所で現地説明が始まった。

この場所は愛知川（写真正面）が西から東へ流れ下る河岸段丘の上で南北に伸びる小さな尾根筋の斜面に沿う場所で斜面を背に 13000 年前の草創期の竪穴式住居群（5 棟）が立ち並んで出土。この場所で 4 棟 少し上のところで土偶が見つかった竪穴式住居 1 棟 あわせて 5 棟の竪穴式住居が見つかった。しかも これらの竪穴式住居は直径が 8m ほどの大型でほぼ同時代縄文草創期のもので建ち並んで出土したという。

また 住居の竪穴は深さ約 1m と深くこれは 縄文草創期の寒冷な気候を反映したもので、住居内にはいずれも炉はないという。



2号竪穴住居跡（手前）より 北へ 縄文草創期の竪穴式住居跡群が並ぶ

一般に縄文人が定住をはじめるのは縄文早期といわれ、縄文草創期にはまだ 渡り歩く生活が主と考えられてきた。発掘された竪穴式住居跡に立つと本当にびっくり。

「これが13000年前 まだ森を渡り歩く生活が主である時代の住居あとか・・・」と。

出土した住居跡はほぼ同時代の住居跡群だということにびっくり。

整然と大きな本格的な竪穴式住居が5棟も建ち並んでいたとなるとこれはもう村の出現と言えるのではないか・・・

しかも 竪穴は深く 大型の住居である。

限られた道具しかない時代に この住居群を作るには多くの人たちの共同が必要だったろう。ここでは もう定住の共同生活が始まっていたのではないか・・・

出土したすばらしい土偶ばかりに頭が行っていたが、縄文草創期の村の出現。 それもあまり有名な縄文遺跡のない関西に。 本当にびっくりである。

- この住居跡はどこまで ひろがっていたのだろうか・・・

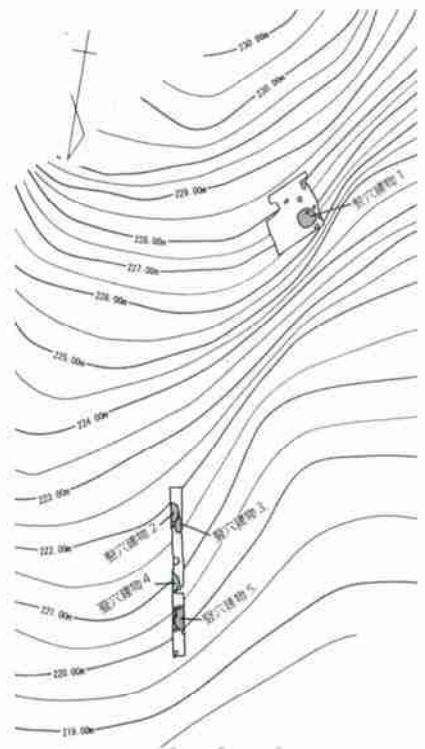
この発掘地の西側には広大な台地が西へ広がっているが この台地の下にも縄文遺跡が眠っているのだろうか

- この河岸段丘の南西の端の森からは縄文晩期の土器棺墓が30基 昨年末に発見されたというが、

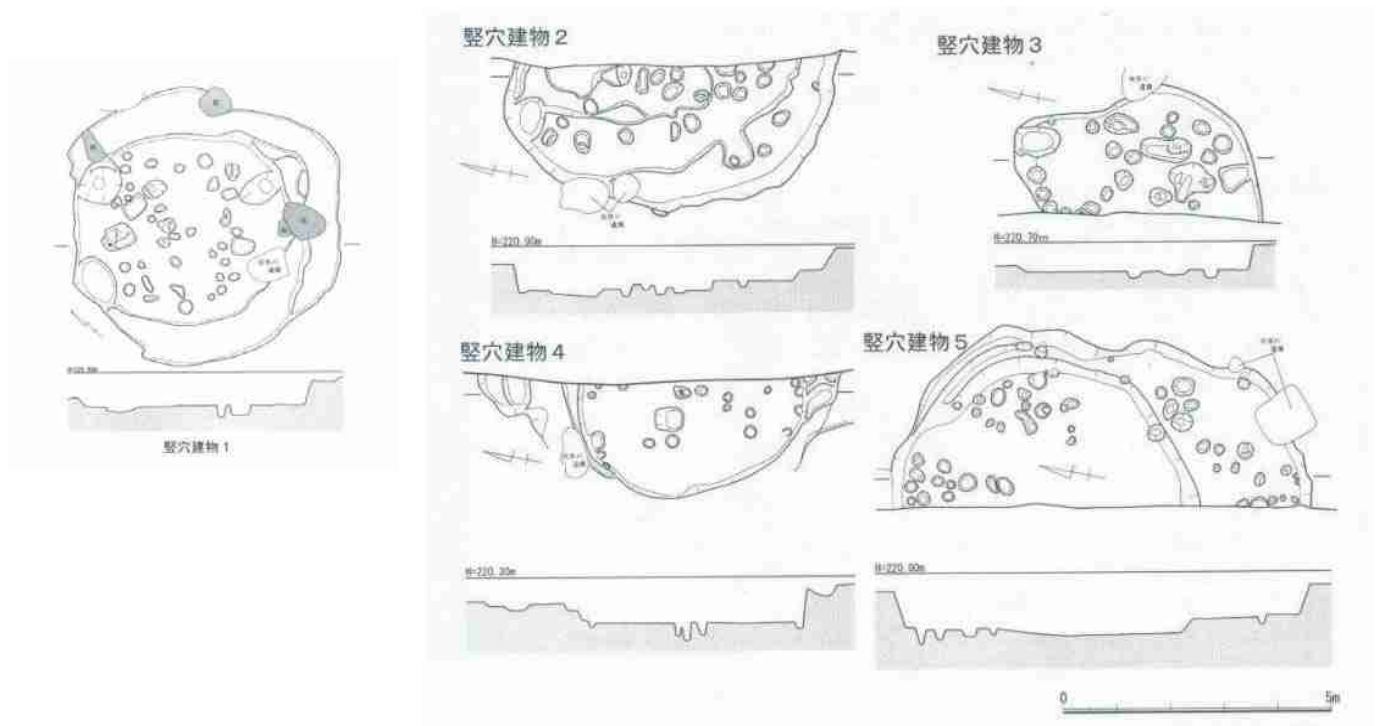
この河岸段丘では縄文草創期からずっと住み継がれてきたのだろうか・・・

- また 最古級の土偶は鈴鹿の山並を越えた三重でも発見されていて、この愛知川が流れ下る八風街道の鈴鹿越は太古からの交流の道だったのだろうか・・・

今までの縄文草創期のイメージからは大きく進化している遺跡をどのように受け止めたらいいいのか 夢が次々と広がってゆく。 まだ 半信半疑であるが、住居跡に沿う道をあっちへ行ったりこっちへ行ったり往復しながら この住居跡を見る。来るときは そこまで考えていなかったのですが、「すぐに 埋め戻されてしまう」と聞いて むしろ景色が見たくてやってきたのですが、「来てよかった」と。



5号竖穴住居跡（手前）より 南へ縄文草創期の竖穴式住居跡群が並ぶ
写真中央 テントの右 樹木がみえる一段上がったところが 土偶が出土した1号竖穴住居跡の位置



出土した縄文の竖穴式住居の平面図・立面図 現地説明資料より

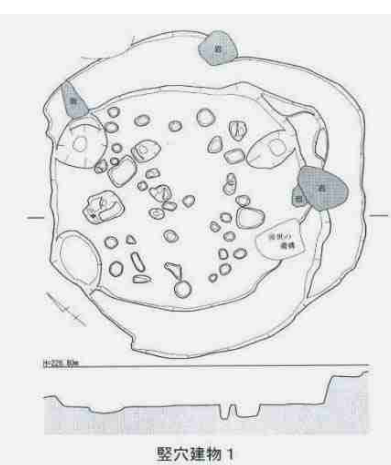
a. 最古級の土偶が出土した 1 号竪穴式住居跡



現在すでに埋め戻され、圃場整備が進む 1 号竪穴住居跡周辺



土偶が出土した 1 号竪穴住居跡周辺 (1) 13000 年前 縄文草創期



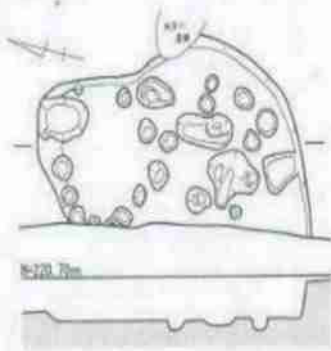
土偶が出土した 1 号竪穴住居跡周辺 (1) 13000 年前 縄文草創期

土偶は取り除いた住居跡地の土の中から見つかったので 正確な住居内の位置はわからない

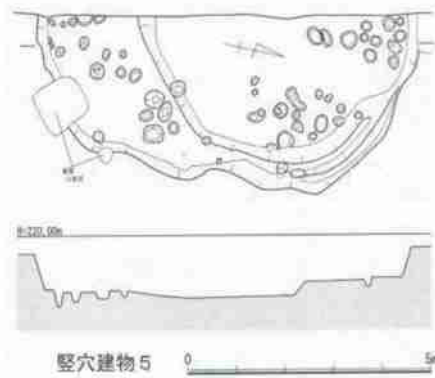
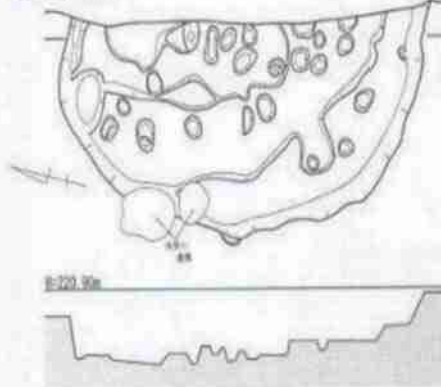
b. 2号竪穴式住居～5号竪穴式住居



竪穴建物3



竪穴建物2

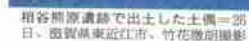


縄文草創期に直径の大きい大型の竪穴住居が建ち並び すでに村を作っていた????



予想以上に深い竖穴 また大きな直径の竖穴住居群

永源寺相谷熊原遺跡出土 相谷土偶 2010.6.5.





出土した相谷土偶
高さ 3.1cm のミニ
の土偶

「縄文のビーナス誕生」を思わせる女性の体形の明瞭・リアルな表現で精巧な土偶作りが、縄文草創期に既に行われていたことに驚きである。

土偶作りが盛んとなる縄文中期以降の土偶 国宝の茅野市棚畑遺跡の「縄文のビーナス」などが 大きな臀部をシンボリックに表現しているのに対して 出土した土偶は胸を強調していて時代の差が浮き彫り。

縄文草創期の最古級の土偶は今回出土した相谷土偶ほどリアルではないが、この地より南へ約60Km 鈴鹿山脈を越えて三重県側にいったところにある粥見井尻遺跡でも2つ出土し、合計3体が出土している。

このことから 土偶のルーツ とりわけ 女性の体形の明瞭・リアルな表現がなされた土偶「縄文のビーナス」がこの地で育まれたのではないかと期待が強くなるとともに、この八風街道を通して鈴鹿の山並みの両側に居た縄文人たちが交流していた可能性も考えられる。

とにかく すごい 土偶 縄文のビーナスの出土である。

相谷熊原遺跡（東近江市永源寺相谷町）で、近畿では初となる縄文時代草創期（約1万3千年前）の竪穴建物群跡を発見、国内最古級の土偶1点が出土
出土した土偶は高さ3・1センチ、最大幅2・7センチ、重さ14・6グラム。

頭はなく、頂部に小さな突起があり、深さ2センチのせん孔が施されていて、穴を空けることで頭部そのものを表現したと考えられている。強調された乳房と腰のくびれがリアルに表現され、底部を平らに仕上げ、自立できる構造は縄文中期以前では類をみない。

2.1cm の超ミニ版で女性が身につけて大事に持っていたのではないかと推察される。



日本最古級縄文草創期の土偶が出土した
粥見井尻遺跡と永源寺相谷熊原遺跡の位置関係



粥見井尻土偶

全長 6.8cm

松阪市粥見井尻遺跡

13000 年前 縄文草創期



相谷土偶

高さ 3.1cm

東近江市永源寺相谷熊原遺跡

最古級の土偶



国宝 縄文のビーナス

高さ 45cm

茅野市棚畑遺跡

縄文中期 4500 年前



重文 仮面の女神

全長 34cm

茅野市中ツ原遺跡

縄文後期前半 4000 年前



ずらっと並んで 縄文草創期の竪穴式住居群跡を見る現地説明会参加者 2010. 6. 5.



既に埋め戻されているが 直ぐ脇の 号竪穴式住居出土した土偶が飾られたテント 2010. 6. 5.

早く出土した土偶を見たいのですが、土偶が展示されている上のテントの所の行列が長く、すき具合を眺めながらその行列に加わる。みんな目当ての土偶なので中々前に進まない。

行列の後ろからのぞきこむと ケースに入れられた土偶は 新聞の写真で見る以上に小さい。

みんな顔をすり寄せ、カメラや携帯電話で 思い思いの写真を撮っている。

早く出土した土偶を見たいと上のテントの所の行列に並ぶのですが、みんな目当ての土偶に中々進まない。



出土した現場近くのテントの中で展示された相谷土偶 2010. 6. 5.

やっと自分の番。これが・・・・。小さいが やっぱり縄文のビーナス誕生だ。 実に成功に作られている。

新聞写真では白い肌で石製のように見えたが、赤い座布団に座っていた為か、濃い茶色の土製である。

しゃがみこんで顔をケースに近づけ、正面・右から 左からと写真を撮る。

現地に来るまでは 頭部がみつければ・・・と思っていましたが、もともと頭がないのがオリジナルで胴の中につけられた穴が頭の表現だと聞く。土偶は三内丸山遺跡の板状土偶なども中に穴が通っているが、この穴がそのルーツか・・・。

草創期から簡略化しても 穴を通すのが重要なわけがこの土偶に遡れると一人合点する。

写真を撮るので夢中だったので、再度行列の後ろにくっついてもう一度土偶を見る。

関西に素晴らしい「縄文のビーナス」出現にうれしくなる。満足感一杯でテントを離れる。

このテントの直ぐ上のところに東西に伸びる道があり、西へ行くとその先 鉄塔のある林ガが昨年 12 月 縄文晩期の土器棺墓が出土した場所だと教えてもらうが、今日は通行止めでそちらへは

行けない。参加者はこの道を右に折れて 少し下がったところの広場にあるある発掘事務所に展示された出土遺物を見にゆく。こちらも長い行列である。発掘事務所に行く前に さらに南へ少し登って 今はもう埋め戻されているが、1 号竪穴式住居周辺や遺跡全体を南側から眺める。



13000年前 縄文草創期 最古級の土偶3例の中のひとつ
相谷土偶 東近江市永源寺相谷町 相谷熊原遺跡



南側から相谷熊原遺跡全体を眺める 2010. 6. 5.

3. 草創期の竪穴住居跡群から出土した遺物

相谷熊原遺跡 発掘現場事務所 展示会場で



相谷熊原遺跡 発掘現場事務所 出土品展示会場 周辺 2010. 6. 5.



竪穴建物からの出土遺物【1】

縄文草創期 竪穴式住居 想像復元図





縦穴建物からの出土遺物【2】



縦穴建物からの出土遺物【3】

- この河岸段丘の南西端のところから出土した30基の縄文晩期の土器棺墓



相谷熊原遺跡（八尾城遺跡） 調査地全景



相谷熊原遺跡 縄文時代の埋め甕が2基

縄文時代の土器棺墓発見



穴から掘り出された土器棺墓。東近江市永源寺相谷町で

縄文時代の土器棺墓が、東近江市永源寺相谷町で発見された。発見されたのは、縄文時代中期から後期の土器棺墓で、約3000年前のものと考えられる。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。

東近江 相谷熊原遺跡から14基
相谷熊原遺跡は、東近江市永源寺相谷町にあり、縄文時代中期から後期の土器棺墓が約14基発見された。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。



相谷熊原遺跡

12月18日(金) 中日新聞(滋賀)

縄文晩期の土器棺墓出土



相谷熊原遺跡で見つかった死者を埋葬したとみられる14基の土器棺墓(東近江市永源寺相谷町)

東近江・相谷熊原遺跡

交流示す証拠に
東海地方の石や石器も
相谷熊原遺跡は、東近江市永源寺相谷町にあり、縄文時代晩期の土器棺墓が約14基発見された。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。

縄文時代の土器棺墓が、東近江市永源寺相谷町で発見された。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。

12月18日(金) 京都新聞(滋賀)

土器棺墓14基出土



相谷熊原遺跡で見つかった土器棺墓。東近江市永源寺相谷町

縄文時代の土器棺墓が、東近江市永源寺相谷町で発見された。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。

縄文時代の土器棺墓が、東近江市永源寺相谷町で発見された。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。

縄文時代の土器棺墓が、東近江市永源寺相谷町で発見された。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。

12月18日(金) 朝日新聞(滋賀)

縄文時代の土器棺墓出土



相谷熊原遺跡で見つかった土器棺墓。東近江市永源寺相谷町

縄文時代の土器棺墓が、東近江市永源寺相谷町で発見された。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。

12月18日(金) 産経新聞(滋賀)

縄文時代の土器棺墓が、東近江市永源寺相谷町で発見された。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。発見されたのは、約3000年前のものと考えられる。

4. 東近江の古刹 緑の中にうずまる 紅葉で有名な永源寺 Walk

永源寺車庫-紅葉橋-永源寺門前-永源寺山門-永源寺本堂-永源寺裏門-永源寺会館-愛知橋-永源寺車庫



永源寺車庫前から少し下って紅葉橋から永源寺門前へ



緑の中にうずもれている永源寺の境内 永源寺の山門 2010. 6. 5.



永源寺本堂前



永源寺本堂

2010. 6. 5.



永源寺の本堂からそのまま東へ裏門を抜けると愛知川沿いの崖の上を緑の道が永源寺会館・愛知川橋を経て 東側から永源寺車庫前へ出て来れる。 東に聳える鈴鹿の山々が、時折樹木の間から望める緑に包まれた静かな道である

永源寺の裏門より愛知川沿いの崖の上を東へ 2010. 6. 5.



永源寺の裏門側より 東の鈴鹿の山々 其の手前に永源寺ダムが望めました 2010. 6. 5.



南側には愛知川ダムの下に広がる相谷の集落がのぞめ、
下方 緑の中に愛知川に架かる真っ赤な愛知橋が見える



愛知川の対岸の河岸段丘上に広がる永源寺相谷集落 2010.6.5.
右端の鉄塔周辺が相谷熊原遺跡

南東側には 相谷熊原遺跡がある対岸の河岸段丘が望めました 2010. 6. 5.

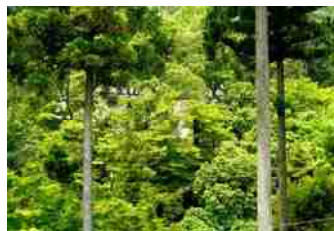


永源寺裏門からの道は愛知川沿いの崖の上を愛知橋の東まで行って そこから分岐りターンして
愛知橋へ下って橋を渡る。

愛知橋の真上 対岸の緑で見えないが 正面の山の下が相谷熊原井関が広がる河岸段丘である



永源寺裏門からの道に架かる愛知橋より 左上流側 右 下流側 2010. 6. 5.



永源寺車庫まで戻ると緑の林の中にうずまって 対岸に永源寺の本堂がみえる 2010. 6. 5.

5. まとめ

永源寺相谷熊原遺跡 縄文の村の始まりと縄文のビーナス誕生を示すのか



5月の末 新聞の一面に13000年前縄文草創期の素晴らしい土偶が出土したとの記事。それも 関西で・・・・。

これ本当に13000年前の縄文草創期に作られた土偶だろうか と疑いたくなる精巧さと美しさ。

まさに「縄文のビーナス」こんな素晴らしい土偶が関西で生まれた。

これはぜひ見たいし、どんな場所に埋まっていたのだろうか・・・・

そっちの方も興味津々で 6月5日 東近江 永源寺相谷熊原遺跡の現地説明会に出かけました。

本当に行ってよかった。

新聞で見たイメージとは異なり、本当に小さな土偶でしたが、「縄文のビーナス誕生」を思わせる素晴らしい土偶。

私だけでなく こんなに縄文ファンが関西に居るのかと思わせるぐらい多くの人たちが食い入るように眺めていました。

また、この草創期の縄文人が住んだ場所 関西の縄文人も眺望の効く本当に素晴らしい高台に住んでいました。

「出土した場所は本当に眺望の効く景色のよい場所に違いない。

まだ、移動生活が主である縄文草創期 13000年前の縄文人が軒を連ねて住んでいた。これもトピックス。」

場所は東近江 近江平野の真ん中を東の鈴鹿山脈に向かって突ききって 鈴鹿の山の谷間に入った永源寺の愛知川河岸段丘の上。東には壁となって鈴鹿の山々が連なる広い河岸段丘 今は広々とした田園が西の琵琶湖に向かってひろがり、その下を鈴鹿から緑の帯となって愛知川が西へ流れ下って行く。対岸の山腹には永源寺 そして其の西側の河岸段丘の上 緑の中に永源寺の集落がみえる。本当に気持ちのよい展望の利く高台でした。

遺跡へ行く道々 道連れとなった滋賀県文化財保護協会の案内人の人が

「土偶も素晴らしいですが、是非 遺跡からの素晴らしい景色も見してほしい。」と発掘の様子などと共に話してくれましたが、本当でした。「やっぱり 縄文人は素晴らしい場所に住んでいる」 縄文遺跡を訪ねる楽しみです。

本当に来てよかったと。



南から北へ 右手の山裾を流れる愛知川の河岸段丘の上広がる相谷熊原遺跡のある河岸段丘 東側より 2010. 6. 5.



遺跡のある河岸段丘の東に聳える鈴鹿の山々 2010. 6. 5.

この山間を八風街道が近江から鈴鹿越して伊勢へと続いている

また、この場所は「伊勢」「八風」の語源となった伊勢風土記に記術のある古道「八風街道」が近江と伊勢を結び、この鈴鹿山脈周辺には三重県側 近江側いずれにも点々と縄文・弥生の遺跡群がある。

伊勢側 松阪粥見井尻遺跡からも最古級の土偶「粥見井尻土偶」が出土している。

また、この八風街道に沿って流れる愛知川下流には縄文後期 ウッドサークルの中で仮面をつけて祭を行ったといわれる能登川正楽寺縄文集落遺跡がある。縄文人たちは草創期から広くこの道を通して 各地と交流していたのだろうか・・・

縄文草創期にこの地では 移動の生活から共同村での定住生活をはじめ、そこでは 後の時代に「縄文のビーナス」と呼ばれるすばらしい女性像の土偶がつくられはじめていた。

この鈴鹿の山懷は「縄文のビーナス」・「縄文の村」を誕生させた関西の縄文人の故地ではないか・・・と。

あまり日の目を見ることのなかった関西の縄文

この永源寺相谷熊原遺跡が縄文草創期の村として整備され、この素晴らしい土偶が見られるようになればいいのですが・・・

まだ、この永源寺相谷熊原遺跡も発掘が端待ったばかり。この河岸段丘の中にどんな遺跡が眠っているのだろうか・・・

思いは次々と広がってゆきます。

「関西に縄文の灯を 」

2010. 6. 5. 永源寺からの帰路のバスから 愛知川の流れを眺めながら

Mutsu Nakanishi

【 参 考 】

1. 東近江市永源寺相谷町 相谷熊原遺跡 縄文草創期竪穴住居後群・土偶出土 現地説明会 資料 2010. 6. 5.
http://www.shiga-bunkazai.jp/download/pdf/100606_aidani.pdf
2. 東近江市永源寺相谷町 相谷熊原遺跡 縄文晩期 土器墓群出土 現地説明会 資料 2009. 12. 20.
http://www.shiga-bunkazai.jp/download/pdf/091220_aidani.pdf
3. Country Walk 風来坊 写真アルバム 東近江 陽だまり walk 2009. 3. 15.
縄文のウッドサークル 能登川正楽寺遺跡と近江八幡 左義長祭りを訪ねる
<http://buffalonas.com/mutsu/www/2009htm/walk6/09spsiga00.htm>
4. 永源寺相谷熊原遺跡で最古級の土偶出土を伝える新聞記事整理〔インターネットより採取〕2010. 5. 30.
<http://buffalonas.com/mutsu/www/2010htm/iron6/1007aitaninews.pdf>



13000年前 縄文草創期 最古級の土偶3例の中のひとつ
相谷土偶 東近江市永源寺相谷町 相谷熊原遺跡



土偶が出土した竪穴住居1跡 4つの竪穴住居が連なって出土 奥より竪穴住居2→5跡 土器棺墓

最古級 ふくよか土偶

滋賀県文化財保護協会は29日、同県東近江市永源寺相谷町の集落遺跡・相谷熊原遺跡から縄文時代草創期（約1万3千年前）の国内最古級の土偶1体が出土したと発表した。三重県で1996年に見つかった土偶とほぼ同時代のもの。ともに女性像で、今回の土偶のほうが指先サイズと小型だが、乳房や腰のくびれが優美に表現されている。信仰や祭祀に使われたとみられ、旧石器時代からの転換期の縄文人の精神文化の芽生えを考えると、貴重な発見という。

（加藤藍子） 35面に関係記事

縄文草創期 指先大

滋賀・相谷熊原遺跡

土偶は高さ3・1センチ、最大幅2・7センチ、重さ14・6グラム。胴体部分だけを表現した。底



を平たく仕上げて自立できる造りは縄文中期（約5千年前）以前の土偶では例がないという。

三重県松阪市の粥見井尻遺跡から出土した同時代の土偶（全長6・8センチ、最大幅4・2センチ）が逆三角形に近い形状なのに対して、今回の土偶は豊満な体形。京都大学の泉拓良教授（考古学）は「パ

ランスがいい。女性らしさの表現は、多産や豊穡の願いを託したのでは」とみる。

土偶は今回出土した5棟の半地下式の堅穴建物群のうち、1棟を覆っていた土から見つかった。この棟から縄文草創期の特徴を持つ爪形文土器や矢柄研磨器（砥石）が出土。土器に付着した炭化物を放射性炭素年代測定法により

鑑定した結果などから、土偶も約1万3千年前のものとみられた。

堅穴建物跡は直径約8メートル、深さ約1メートルの棟もあり、国内各地で出土した同時代の一般的な堅穴建物跡（直径4〜5メートル、深さ30〜40センチ）に比べて規模が大きい。多大な労力をさいて建てられたとみられ、定住用の建物の可能性があ

る。県文化財保護協会の松室孝樹主任は「縄文人の定住化への過程と、土偶のルーツの関係を探る鍵になる発見だ」と話す。

現地説明会は6月6日午前10時と午後1時半からの2回。雨天決行。問い合わせは同協会（077・548・9780）へ。



相谷熊原遺跡で出土した土偶＝26日、滋賀県東近江市、竹花徹朗撮影

安定願った 豊満な体

最古級土偶 専門家「定住へ意識」



三重 三重県の粥見井尻遺跡で1996年に出土した土偶＝三重県埋蔵文化財センター提供



滋賀 相谷熊原遺跡で出土した土偶＝26日、滋賀県東近江市、竹花徹朗撮影

なだらかな肩のライン、胸の豊かな膨らみ、腰のくびれ。滋賀県東近江市の相谷熊原遺跡から出土した縄文時代草創期の国内最古級の土偶は高さ約3センチと小さいながら、女性の特徴が強調されていた。「子孫繁栄」「食生活の安定」への願いの表れなのか。約1万3千年前に土偶をつくった縄文人に、専門家は思いをはせた。――11面参照

同時代の土偶は、約60センチ南にある三重県松阪市の粥見井尻遺跡から出土しているが、形状が全く異なる。南山大学の太塚達朗教授（考古学）は「今回見つかった土偶は豊満、立体的、リアルな造形で、ひと目で女性とわかる。粥見井尻遺跡の土偶とは制作意図が明らかに違う。安置して常に大切にするという意味が込められているのだろう」と指摘する。

縄文時代に詳しい国立民族学博物館の小山修三・名誉教授は、欧州の旧石器時代のビーナス像と同様、乳房が強調

されていることに注目。「当時の豊饒さのシンボルが女性の胸にあったということだろう。縄文中期の土偶が、腹部や臀部を強調した妊婦型なのとは対照的だ。小型なのはお守りのように持ち歩くためでは」とみる。

その制作意図について、国学院大学の谷口康浩教授（先史考古学）は「定住化による共同体意識の高まりの中で、『食生活の安定』『命の継承』に対するより強い願いが生まれたことの表れ」と推測。移動生活を繰り返していた旧石器時代に土偶は存在しておらず、世界観が完全に変わったことを示しているともみる。

土偶が見つかった堅穴建物跡にも専門家は注目する。相谷熊原遺跡は三重県境の鈴鹿山脈を源流とする愛知・川南の河岸段丘にある。山間部に開けた平地でも棟の跡が確認された。



縄文時代草創期

京都大学大学院の泉拓良教授（考古学）は大規模な遺構と最古級土偶の関連について、「土偶に人々が託したとされる豊穡や子孫繁栄の願いは、共同体意識があつて初めて生まれる。土地に根ざして生きるという覚悟が、この土偶を生んだのかもしれない」と語る。

奈良大学の水野正好・名誉教授（考古学）も「人々が定住していたといえる住居が多数ある集落の発見は意義が大きい」と指摘する。

日本列島で人類の生活が始まったとみられる後期旧石器時代に続く時代。約1万5千年前から約1万1千年前とされる。最終氷期が終わり気候は暖かくなり、人々は狩猟や漁労、木の実の採集などで生活の糧を得ていた。矢柄研磨器など新しい石器や土器が数多く出現したのが特徴。旧石器時代の人々は移動生活を繰り返していたが、縄文草創期に堅穴建物が造られ始めたこととみられることから、この時代に定住化が進んだとする研究者もいる。

まさに“縄文のビーナス” 最古級の土偶発見

東近江・相谷熊原遺跡

ふっくらした胸に、わずかにくびれた腰。

滋賀県東近江市永源寺相谷町の相谷熊原遺跡で見つかった土偶は、豊満な女性をリアルに表現した1万3千年前の“縄文のビーナス”だった。子孫繁栄や安産のシンボルといわれる土偶。スタンプほどの大きさしかない超ミニサイズの人形に、古代人たちの深い祈りが込められていた。

今回の土偶は頭部が表現されておらず、首の部分に1ミリ大の穴が空けられていた。調査担当の県文化財保護協会によると、現代のひな人形のように頭部を棒状の芯ではめ込むタイプではなく、穴を空けることで頭部そのものを表現した可能性があるという。

縄文時代初めに誕生した当初の土偶は、頭部がなく胴体だけで表現されているものが一般的だ。今回の出土品は乳房が強調されていたことから、子孫繁栄を願うシンボルだったとみられる。

顔が明確に表現されるのは、縄文中期（約5千年前）になってからという。

縄文文化に詳しい渡邊昌宏・大阪府教委参事は「とても小さい土偶で、女性がお守りとして肌身離さず大切に持っていたのではないかと推測。「女性が『乳がたくさん出ますように』と祈りをこめたのかもしれない」と、縄文人の心情に思いをはせる。

縄文初期の日本列島は、氷河期の終焉とともに海水面が次第に上昇し、それまで中国大陆と陸続きだったのが現在の姿になったところとされる。一方、地質学者らの研究によると、今回の土偶や竪穴住居跡が見つかった約1万3千年前は、地球規模で再び一時的に寒冷化し、現在より平均気温が10度以上も低かったとの説がある。

京都大大学院の泉拓良教授（考古学）は、こうした気候変動に着目。

「急激な寒冷化によって、縄文人は寒さをしのぐため、深さが1メートルもある半地下式の竪穴住居を築くようになった」とし、「深くて大きな竪穴住居を築くには、集団で作業をしなければならず、人が集まることで新たな文化が芽生え、土偶が生み出されたのではないかと推測する。

深さ1メートルを超える竪穴住居は、世界的にもシリアで出土した約1万2千年前が最古級とされ、泉教授は「今回の住居跡は、国内どころか世界的にも極めて古い」と指摘した。



【写真説明】

土偶が見つかった相谷熊原遺跡。

国内最古級の大型竪穴住居跡も確認された
＝滋賀県東近江市（塚本健一撮影）

土偶 粘土で女性をかたどった素焼きの人形で、縄文時代初めに出現。北海道から九州にかけて約1万5千点が出土しているが、弥生時代になると突然姿を消す。歴史教科書などで紹介される派手な装飾や大きな眼鏡をかけたような土偶は東北地方に多く、大半は縄文時代後期や晩期（約3千～4千年前）に作られたとみられる。

縄文初期の最古級土偶、竪穴住居跡出土 滋賀・相谷熊原遺跡

滋賀県東近江市永源寺相谷（あいだに）町の相谷熊原遺跡で、縄文時代初め（約1万3千年前）の土偶と大型竪穴住居跡が見つかり、県文化財保護協会が29日発表した。いずれも国内最古級で、縄文人の生活や文化を知る上で貴重な資料になるとともに、従来は東日本が中心とされてきた縄文文化が近畿でいち早く誕生した可能性も出てきた。

土偶は高さ3センチ、重さ15グラムと極めて小さく、竪穴住居跡から完全な状態で見つかった。頭部はなかったが、乳房が表現されていることから女性の上半身とみられ、子孫繁栄を願う象徴だったと推測されている。これまで最古とされていた土偶は、約60キロ南にある三重県松阪市の粥見（かゆみ）井尻遺跡の2点で、今回とほぼ同時期という。

竪穴住居跡は5棟分が見つかり、うち2棟分は直径約8メートル、深さ1メートル近く。この時期の竪穴住居跡は全国で50～100例見つかっているが、大半は直径3～5メートルで、異例の大きさだった。大型住居を建てるには多くの労働力が必要なことから、この地域の縄文人が集団で生活し、住居を築いた可能性もあるという。

現地説明会は6月6日午前10時と午後1時半。近江鉄道バス・永源寺車庫下車。

谷口康浩・國學院大准教授（先史考古学）の話「縄文文化は東日本中心という説が有力だったが、近畿や東海を中心に早い段階から芽生えていたのではないかと。この時期は竪穴住居跡の発見例が少なく、定住はなかったとの見方が強かったが、今回の発見で定住化が進展していたことがうかがえる」



相谷熊原遺跡から出土した国内最古級の縄文時代の竪穴住居跡
26日午後、滋賀県東近江市永源寺相谷町（塚本健一撮影）



土偶が出土した竪穴建物跡
滋賀県東近江市（滋賀県文化財保護協会提供）



滋賀県東近江市永源寺相谷町の相谷熊原遺跡で、
出土した国内最古級の女性をかたどったとみられる土偶

土偶：国内最古級 1 体出土 滋賀の相谷熊原遺跡で

2010 年 5 月 29 日 17 時 31 分 更新：5 月 29 日 19 時 8 分

滋賀県文化財保護協会は 29 日、同県東近江市永源寺相谷町の相谷熊原（あいだにくまはら）遺跡で、縄文時代草創期（約 1 万 3 0 0 0 年前）の竪穴住居跡 5 棟が見つかり、国内最古級の土偶 1 体が完全な形で出土したと発表した。同時期の住居群跡は全国で数例、土偶は三重県の粥見井尻（かゆみいじり）遺跡で 2 点しか発見されていない。移動生活から定住が始まった時期の暮らしや文化がうかがえる、貴重な発見となりそうだ。

発見された土偶は高さ 3. 1 センチ、最大幅 2. 7 センチ、重さ 1 4. 6 グラム。女性の胴体のみを、胸や腰のくびれも優美に表現し、底は平らで自立するのが特徴だ。上部に直径 3 ミリ、深さ 2 センチの穴があり、棒で別の頭部をつないだなどの可能性もある。

相谷熊原遺跡は、三重県境の鈴鹿山脈から流れる愛知（えち）川の南の河岸段丘にあり、山間地と平野部が接する場所にある。竪穴住居群は、緩い斜面約 1 0 0 メートルの間に 5 棟連なって確認された。規模の分かるものは直径約 8 メートルのいびつな円形で、深さ約 0. 6 ～ 1 メートルと、これまでの例より深く、しっかりした構造だった。作るのに相当な労力がかかる上、多くの土器や石器も出土しており、一定時期でも定住したことが考えられるという。

現地説明会は 6 月 6 日、午前 1 0 時と午後 1 時半の 2 回。雨天決行。問い合わせは県文化財保護協会（0 7 7 ・ 5 4 8 ・ 9 7 8 0）。【南文枝】



縄文時代草創期の竪穴住居跡から発見された土偶
滋賀県東近江市永源寺相谷町で、南文枝撮影